

会報

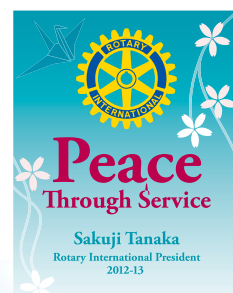
過去に学び
次世代への継承

2012～2013年度 会長 黒島 一生

第2704回 4月2日(火)

2012～2013

奉仕を通じて平和を
心・家族・地域・世界に平和の恩恵を



本日のプログラム

「ソマリア沖の海賊対処について」

海上自衛隊 函館基地隊司令 1等海佐 五島 浩司 氏

次週のプログラム 4月9日(火)

「徳川家歴代将軍のウソ・ホント！」

南部 知正 会員

- 例会場/ホテル函館ロイヤル TEL(0138)26-8181(代)
- 例会日/毎週火曜日 12:30～13:30
- 事務所/ニチロビル4F TEL(0138)23-3870 FAX(0138)22-2251
- 会長/黒島一生 ●副会長/戸嶋浩 ●会長エレクト/池垣信一
- 幹事/佐藤真一 ●副幹事/五十嵐正
- 友好クラブ/青森東ロータリークラブ・長崎東ロータリークラブ

第2703回例会 2013年3月26日(火) 天候 晴

月間テーマ 雑誌月間

■ロータリーソング 手に手つないで

■司会 黒島 一生 会長

■委員会報告

1、社会奉仕委員会：例会終了後、親睦活動委員会、SAA、社会奉仕委員会合同の委員会がありますのでお残り願います。

■幹事報告

- 1、4月よりロータリーレート1\$=94円へ変更されます。
- 2、会員の推薦がありました。異議申し立てのある会員は書面にて理事会へ25日までに提出ください。
- 3、2013-2014年度合同名簿の作成の為、今年度名簿を回覧いたしますので、校正願います。

り約30分程度のWAFCATの活動やタイの障害者～車椅子のニーズ等の説明を聞きました。その後、政岡会長と熊澤さん、事務局の現地スタッフと昼食をとり寄贈する車椅子のある車椅子工場タイウィールへ。

◎車椅子工場へ

車椅子を受け取りに子供たちを代表し3名の子供たちが当工場に到着するまで工場の会議室にて委員長より当クラブの紹介やこのたびの経緯について説明。工場長ソロッさんよりお礼と当工場の概要説明がありました。その後、車椅子の製作工程を工場の中を見学しながら元デンソーの技術者で当工場の技術アドバイザーのピラワットさんから工場についての説明を受けました。そのほか当工場で車椅子の他にも生産されている障害者用三輪車も試乗させていただきました。その後、障害者のこどもたちを代表した3名が到着し各々へ新しい車椅子に乗っていただき問題がないか確認、調整しました。3名の子供たちの代表よりお礼のお話があり、また子供たちのリハビリを担当するスタッフの方からもお礼と今後も支援をお願いしたい旨の要望をお聞きしました。最後に記念に皆さんと集合写真をとり、施設をあとにしました。

●3月10日

AM7時25分 羽田 出発。羽田へ戻される。
午後 再度函館へむかうも、再度羽田へ戻される。
羽田へ到着し3名は宿泊し明日へ変更。4名は再度、最終函館行きへ搭乗。
9時すぎ着陸しJTB支店長お出迎えのもと帰宅へ。
翌日 3名も無事函館へ到着しました。

●タイの障害者事情

・タイは、バンコクの一極集中（日本の東京への集中の2倍）により、地方農村部との所得格差があり（約10倍）貧困が障害発生率を高めている。

「タイ 車椅子寄贈事業 事業報告」

函館東ロータリー 国際奉仕委員会
委員長 時田 茂 会員

とき：3月6日～3月10日

ところ：タイ バンコク

参加者：時田会員、小林会員、五十嵐稔会員、林会員、宮崎徳三郎会員、安田真也会員、佐藤真一会員、国立元会員



●3月7日・9日

ゴルフと観光。

●3月8日

◎デンソータイランド内へ

WAFCATの会長でロータリアンである政岡さん、事務局責任者の熊澤さんとお会いし車椅子支援金の寄贈。政岡さんは、元デンソータイランドの社長、日本語で話すクラブバンコクスリーオンRCのエレクト。事務局責任者の熊澤さんよ

過去に学び 次世代への継承

- ・ 宗教的な古い迷信から障害者は前世の業が原因という考えなどから偏見もあり、学校の受け入れ整備もなく、車椅子で行動する環境がなく、自宅から出ずにいるような障害児がまだまだたくさん存在している。
- ・ 先天性の他ポリオによるケースも、たまにある。
- ・ WHOのデータでは障害者は総人口の10～15% その内8割は発展途上国。
- ・ タイの人口約6500万人。推定で内8%として障害者は500万人いて身体的障害は3割程度といわれているので、少なく推測しても100万人の車椅子利用対象者がおり、車椅子の寿命などから年間2万台の車椅子ニーズがある。
- ・ タイの95%は仏教で寄付、施しの意識があり、また、1991年障害者リハビリ法により、障害者への給付金や、法定雇用制度もあるが、まだ低所得や貧困層のため車いす5000パーツ（1.5万）でも月収1万パーツの方がたくさんいたりするので、支援が必要。



■ニコニコボックス

黒島会長、佐藤真一幹事 国際奉仕委員会 時田委員長、本日の卓話宜しくお願い致します。

池垣信一会員 妻が特定社会保険労務士に合格致しました。

安田雄二会員 先週47才になりました。これからも宜しくお願いします。時田さんのお話し楽しみにしています。

國谷会員 時田委員長、タイ訪問報告たのしみしています。

小林会員 会長、幹事ご苦労さまです。

■広告料 (株)石畑商店 石畑弘樹会員

■出席報告

・ 3月26日(火) 47名中出席29名(免除1名)

・ 3月12日(火) 出席率80.0%

市内他クラブ プログラム

4月 3日(水) 函館北 R C

「和歌山城南RC創立25周年記念例会出席報告」 藤田 正男 会員

4月 4日(木) 函館 R C

「新幹線開業へ青函観光圏への期待」 藤森 和男 氏

4月 5日(金) 函館五稜郭 R C 卓 話

4月 8日(月) 函館亀田 R C 卓 話

◆ テレフォンサービス 26-3170 ◆

及明ビル管理(株)

小林 眞樹 会員

本通1-5-13 電話 53-6037

くにや司法書士法人

國谷 大輔 会員

堀川町6-15 電話 30-4008



アジア車いす交流センター（タイランド）

WAFCAT(Wheelchairs and Friendship Center of Asia, Thailand)

WAFCAT は、愛知県刈谷市に本社を置く自動車部品メーカー株式会社デンソーが会社創立 50 周年を記念し、社会貢献事業の一環として 1999 年 NPO 法人『アジア車いす交流センター（WAFCA）』を創設したのを受け、その海外現地活動組織として 1999 年 9 月に設立されたタイの財団法人です。WAFCAT は、アジアの障がい者に対する車いすの普及活動を通じて、障がい者が社会で自立できる環境づくりを行うとともに、スポーツ・教育分野における交流を通じて、バリアフリー社会の実現に寄与することを活動目的としています。WAFCAT の活動は、設立母体である株式会社デンソーが初めて海外拠点を設けたタイからスタートし、タイを中心にアジアの障がい者の自立を支援しています。

① 車いすの生産・普及事業

～アジアでの車いす普及をめざして～

車いす工場の生産支援

2000 年 3 月にタイ政府及び障がい者財団と協力し、「障がい者自らが車いすを生産する」工場「Thai Wheel」を設立。生産設備の寄贈とともに、技術者を常駐派遣し、生産技術や生産管理支援を継続して行っています。現在 Thai Wheel では「障がい者による障がい者のための車いす」が年間 1,800 台以上生産されています。

また、2007 年にオープンした中国車いす生産工場の設立準備のため、タイから技術スタッフを派遣し、タイウィール工場立ち上げ支援の経験を生かした効果的な支援も行っています。



バンコク圏にある Thai Wheel 工場



Thai Wheel で働く障害者

車いすの普及活動

「外に出たい」、「学校へ行きたい」、そんな障がい児の願いをかなえるため、Thai Wheel で生産された車いすを買い上げ、タイを中心にアジアの障がい児へ車いすを寄贈しています。これまでにタイやアフガニスタンをはじめとするアジアの障がい児に 1,600 台以上の車いすを届けました。



初めて車いすに乗り笑顔を見せるワラーボーンちゃん

また、寄贈した車いすを無料で修理する車いすメンテナンスキャラバンも実施。修理活動を通して、障がい者や他の支援団体との交流活動を推進しています。

車いす技術者の育成

タイ、ラオス、マレーシア、ベトナム、アフガニスタンなどから車いす技術者をタイに招聘、アジアの国々の車いすの製造、修理技術向上を目的とした国際研修を開催しました。

さらに、タイ国内においては、受講者が各地域に戻り、車いす修理ができるように、修理工場の設立を支援しています。



タイの車いす製造・修理研修

② 障がい児教育支援事業

～障がい児の教育機会の拡大をめざして～

タイ東北地方での教育支援

「タムニー奨学金」で知られる日本民衆交流センターと協働で、総合的な就学支援活動を行っています。学校や地域の理解と協力を得て、車いす奨学金の提供、学校教職員研修、障がい児啓発セミナー、教員研修などの活動を行うことで「学校に行きたい」という障がい児の夢を応援しています。



学校に通い始め、多くの友だちを得たノンブアランブー一級のモンルディーちゃん



対象児童宅を訪問し志願者の車いすの状況確認やリハビリ指導を行う

バリアフリーのモデル校づくり

タイの地域の小・中学校に障がい児用トイレやスロープを設置し、障がい児が健常児とともに学べる環境づくりを行っています。また、バリアフリーモデル校支援を通して、さらにその地域の、障がい者及び弱者支援に対する意識を高めることも目的としています。



ノンブアランブー一級で学校・地域の協力を得て完成した車いす用トイレ。奨学金をもらって学校へ通っているスタッフくんが使い方を練習しています。

③ 障がい者スポーツ交流事業

～障がい者スポーツの普及をめざして～

スポーツ活動を通じて、障がい者が「屋外へ」、そして「社会へ」、そんな思いから、WAFCA では車いすバスケットボールを応援しています。日本やタイで車いすバスケットボール交流大会を開催するとともに、タイで指導者の養成を行うなど障がい者スポーツの普及に取り組んでいます。また 2005 年は、7 カ国より選手を招聘し、愛・地球博会場にてアジア交流大会を開催しました。（2008 年度で終了）



愛・地球博会場で行った WAFCA 車いすバスケットボールアジア交流大会

WAFCAT訪問アレンジに関わる ご寄付のお願い

WAFCATでは、WAFCA（日本）や旅行代理店経由で、WAFCAT事務局以外の団体訪問やボランティア活動アレンジのご依頼をいただいた場合、実施運営費及びWAFCAT車いす支援事業への寄付金額のベースラインを設定し、WAFCA・WAFCAT活動へのご協力をお願いしています。日程、訪問先、活動内容など、何でもお気軽にご相談ください。

【訪問先（例）】

- ・タイ・ウィール車いす工場（※最大受入人数：30名）
- ・ロブリー県パンヤヌクン知的養護学校
- ・パクレット障がい児孤児院（バーン・ノンタブーム）
- ・パタヤ・レテンプトリスト職業訓練学校
- ・チャリティ商品（ワイヤーアート、ビーズアート）製作者関連団体
- ・各県の特別教育支援センター（SEC）
- ・その他、障がい関係諸団体
- ・障がい児の自宅や学校の訪問

【寄付内容】

- 1) ツアーアテンド費用（事前準備、フォローアップ、車いす寄贈活動へのご寄付含む）
 - ・16名まで：5,000THB/団体
 - ・17名以上：3000THB/人
- 2) 車いすの寄贈・組立て体験を希望される場合
 - ・5,000THB/1台

※上記ご寄付には、ツアーの参加者、WAFCATスタッフのホテル宿泊費、食費、他県を訪問など長距離の移動費は含まれません。宿泊・食事・車の手配が必要となる場合は、WAFCATでもアレンジ可能ですが、別途人数分の実費をいただきます。また、(2)のご寄付を頂く場合は、(1)の費用はいただきません。

【支払い方法】

- ・WAFCATへタイパーツにて現金払い、または銀行振り込み
- ・領収書はWAFCATが発行



財団法人アジア車いす交流センター（タイランド）事務局

Wheelchairs And Friendship Center of Asia (Thailand)

C/O DENSO (Thailand) Co., Ltd.

369 M.3 Teparak Rd., T. Teparak, A. Muang, Samutprakarn 10270 THAILAND

TEL: +66 (0) 2758-4646 ext. 2442 (担当: 熊沢) 携帯: +66 (0) 89-798-6077

E-mail: kumazawa_yukiko@denso.co.th